平成２９年 １２月 ２０日

平成２９年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立城山中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，平成２９年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し，児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに，各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより，本県児童生徒の学力向上に資する。

2　調査期日

平成29年4月18日（火）

3　調査対象

小学校　第４学年，第５学年（国語，算数，理科，質問紙）

中学校　第２学年　（国語，社会，数学，理科，英語，質問紙）

4　本校の実施状況

第４学年	国語　３６人	算数　３６人	理科　３６人
第５学年	国語　４８人	算数　４８人	理科　４８人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年，実施教科が限られていることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

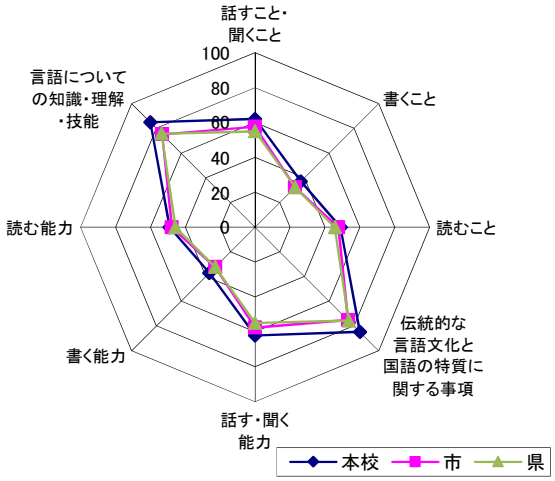
(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立城山中央小学校 第４学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと･聞くこと	62.0	57.5	54.9
	書くこと	37.1	32.3	32.3
	読むこと	49.0	47.7	45.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	84.9	75.3	75.8
観点	話す･聞く能力	62.0	57.5	54.9
	書く能力	37.1	32.3	32.3
	読む能力	49.0	47.7	45.7
	言語についての知識･理解･技能	84.9	75.3	75.8



★指導の工夫と改善

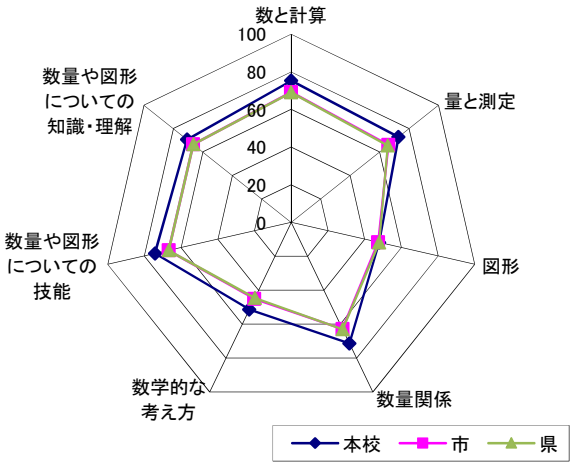
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○領域の平均正答率は62.0%で市の平均を4.5ポイント上回っている。 ●設問別に見ると，「話しの中心に気を付けて聞き，自分の意見を述べる」の正答率が22.9%であり，市の平均より4.1ポイント低かった。	・国語だけでなく，他教科においても話合い活動をも設けることで，互いの考えを聞き取り，共通点や相違点を考えながら発表する活動を積極的に取り入れていく。
書くこと	○領域の平均正答率は37.1%で市の平均を4.8ポイント上回っている。 ●設問別に見ると，「メモを基に，報告レポートに記述する内容を考えて書く」の正答率が34.3%で市の平均より4.0ポイント低かった。	・校外学習等でメモしたことを基に，作文を書かせたり小作文を書く機会も取り入れたりして，伝えたい内容を明確にして文章を書くことに慣れさせていく。
読むこと	○領域の平均正答率は49.0%で市の平均を1.3ポイント上回っている。 ●設問別に見ると，「目的に応じて文章を要約する」が市の平均より9.5ポイント低く，「登場人物同士の関係や物語上での役割を捉える」が市の平均より13ポイント低かった。	・キーワードに線を引かせ，それをもとに文章にできるようワークシートを工夫する。 ・物語の中で，登場人物の気持ちや行動を表す言葉に注意して読み取らせたり，場面の様子を捉えさせたりし，登場人物同士の関係性や物語上での役割を考えさせる指導を行っていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○領域の平均正答率は84.9%で市の平均を9.6ポイント上回っている。 ●設問別に見ると，「国語辞典の使い方」と「会話文におけるかぎ(「」)の使い方」の設問が市と県の両方の平均より低かった。	・国語辞典の使い方については，教科書の内容で意味の分からない言葉を調べる機会を取り入れ，使い方に慣れさせていく。会話文におけるかぎ(「」)の使い方については，物語文等の学習で会話文に気を付けて読み取らせ，かぎ(「」)のある文章に慣れさせていく。 ・作文を書く際には，かぎ(「」)の使い方に気を付けさせていく。

宇都宮市立城山中央小学校 第４学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	75.3	69.2	69.1
	量と測定	72.9	66.1	65.6
	図形	47.9	47.4	48.0
	数量関係	71.4	62.9	63.1
観点	数学的な考え方	51.4	45.1	44.6
	数量や図形についての技能	74.3	66.8	66.8
	数量や図形についての知識・理解	70.7	66.6	66.5



★指導の工夫と改善

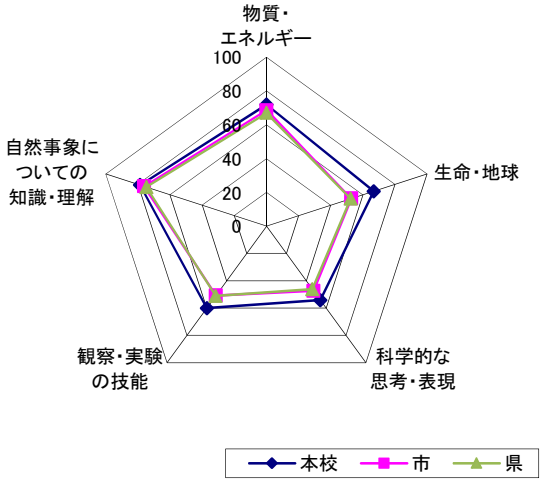
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○領域の平均正答率は75.3%で市の平均を6.1ポイント上回っている。設問別にみると，余りのある除法の計算の答えを確かめる問題の平均正答率は77.1%で市の平均を17.9ポイント上回っていた。 ●4位数−4位数＝4位数（繰り下がりあり）の計算問題は，市の平均より低かった。	・既習内容がしっかりと身に付くように宿題やプリント等で復習の時間を取り，定着を図れるようにしていきたい。繰り下がりのある計算についても確実にできるよう，再度確認し理解につなげていきたい。
量と測定	○領域の平均正答率は72.9%で市の平均を6.8ポイント上回っている。設問別にみると，分と秒の単位で表された時間を秒の単位に換算する問題の平均正答率は91.4%で，市の平均を12.2ポイント上回った。 ●算数の教科書4年（上）1さつのおよその重さを選ぶ問題は，若干市の平均より低かった。	・具体物を用いながら復習し，重さの見当をつけられるようにするとともに，実生活にもつながるよう理解の定着を図っていく。
図形	○領域の平均正答率は47.9%で市の平均を0.5ポイント上回っている。設問別に見ると，円の直径を作図する問題の平均正答率は80.0%で，市の平均を15.4ポイント上回った。 ●三角形を作図する問題の平均正答率は，市の平均より8.4ポイント下回った。	・三角形の作図については，プリントやドリル等を活用して復習する機会を設け，知識の定着を図る。
数量関係	○領域の平均正答率は71.4%で市の平均を8.5ポイント上回っている。設問別にみると，等分除の問題について，除法の式を立式し答えを求める問題の平均正答率は82.9%で，市の平均を21.3ポイント上回った。 ●表や棒グラフから分かる正しい内容を選ぶ問題の平均正答率は，市の平均よりやや低かった。	・表やグラフについては，複数の棒グラフを提示する問題などから，正しい情報を読み取る力を付けさせていきたい。また，算数だけでなく他教科においても表やグラフを読み取る学習を積極的に取り入れていきたい。

宇都宮市立城山中央小学校 第４学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質･エネルギー	71.9	68.6	66.9
	生命･地球	66.7	52.8	52.4
観点	科学的な思考･表現	54.2	47.4	46.2
	観察･実験の技能	60.0	50.8	51.1
	自然事象についての知識･理解	78.6	76.1	74.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○領域の平均正答率は71.9%で市の平均を3.3ポイント上回っている。内容別に見ると，「風やゴムの働き」と「磁石の性質」は市の平均よりやや低いが，他の単元は市の平均を上回っている。 ●「電気の通り道」の正答率は61.8%で市の平均を4.4ポイント上回っているが，豆電球のつき方から箱の中の回路の様子を推測する問題に関して，正答率が38.9%と低く，市の平均も下回っている。	・理科の学習においても，プリント演習や宿題等で復習を行い，知識の定着を図る。そして，実験など体験的な活動に進んで取り組んでいるため，今後も授業の中に取り入れ，学習内容の定着を図っていく。 ・電気についての実験前に実験の目的や方法を理解させ，自分で予想を立てられるようにする。
生命・地球	○領域の平均正答率は66.7%で市の平均を13.9ポイント上回っている。内容別に見ても市の平均を上回っている。 ●「昆虫と植物」の虫眼鏡の適切な使い方が分かる問題に関して，正答率が27.8%と低く，市の平均も下回っている。	・実験器具を使って観察するときは，名前だけでなく使用方法を丁寧に指導し，全員が使用できるようにする。そして，身近な自然事象への関心をさらに高めていけるよう，継続的な観察を行い自分の目で確かめさせる経験を積ませ，実感を伴った理解を図る指導をしていく。

宇都宮市立城山中央小学校 第４学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

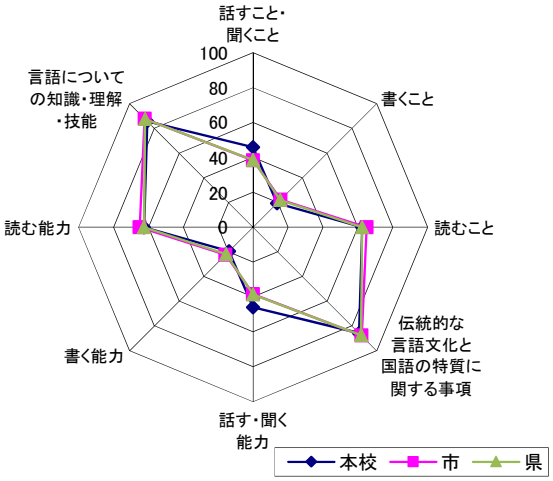
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「毎日，朝食を食べている。」と回答した児童は97.2%で，「毎日，同じ時刻に寝ている。」と回答した児童は91.7%と共に9割を超えていることから，基本的な生活習慣が身に付いている児童が多い。
○「授業を集中して受けている」と回答している児童は100%で，授業のけじめがつけられている。
○「授業では，自分の考えを発表する機会が与えられている。」と回答した児童は86.1%で，「クラスは発言しやすい雰囲気である。」と回答した児童は91.7%と共に県の平均を10ポイント以上上回っており，児童にとって発表しやすい授業環境が整っている。
●「授業では，授業の目標(めあて・ねらい)が示されている」と回答した児童は86.1%であるが，「授業で扱うノートには，学習の目標(めあて・ねらい)が示されている」と回答した児童は58.3%と低い。目標(めあて・ねらい)が示されているがノートには書いていない児童が多い。目標を示すだけでなく，ノートにも書かせるようにしていきたい。
●「授業の最後に，学習したことをふり返る活動をよく行っている」と回答した児童は63.9%と県平均より5.6ポイント低い。授業の終わりには自分の言葉で振り返り，ノートに書く時間を設定したい。

宇都宮市立城山中央小学校 第５学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと･聞くこと	45.8	38.3	38.5
	書くこと	19.4	22.3	21.9
	読むこと	62.5	65.0	62.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	85.8	87.8	87.5
観点	話す･聞く能力	45.8	38.3	38.5
	書く能力	19.4	22.3	21.9
	読む能力	62.5	65.0	62.5
	言語についての知識･理解･技能	85.8	87.8	87.5



★指導の工夫と改善

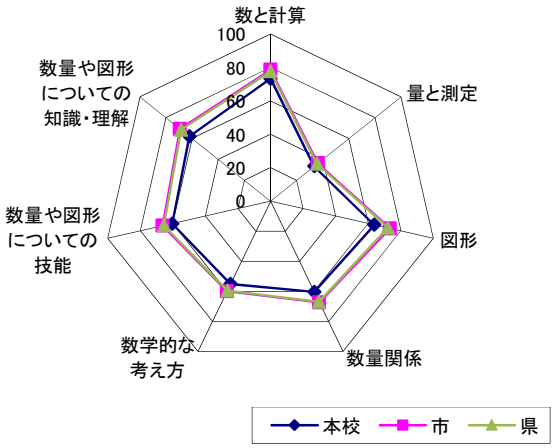
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○平均正答率は，市の平均を7．5ポイント上回っている。特に，「考えの共通点や相違点を整理しながら聞く」設問での正答率が高かった。	･グループで話し合う場面や全体で考えを伝える場面で，相手の意見や考えを整理して話合いが進められるよう，聞く態度や意識を高められるよう指導を継続していく。また，聞いたことをもとに，自分の考えを相手に伝える場面を設定していくことで，話す力を高めていきたい。
書くこと	●市の平均と比べて正答率が約3ポイント下回った。メモや友達の意見をもとに，リーフレットのまとめを書く設問での正答率は8．3%であった。	･情報を整理し，まとめて書くことが苦手である。書く内容や構成に着目させるとともに，基本的な文章の書き方の確認もしていくことで，書く力を身に付けられるようにしていく。
読むこと	○文章中に指示された部分について詳しく説明するための言葉を書きぬく設問での正答率は，県，市の平均正答率を上回った。 ●市の平均と比べて正答率が2．5ポイント下回った。説明文では，段落に小見出しを付ける設問や読み取ったことをまとめる設問での正答率が低かった。	･説明文の内容や構成を整理できるよう，段落ごとにどんなことが書かれているのかをまとめたり，要旨を書かせたりする活動をしていくことで，読解力を高めていく。 ･文意が読み取れるよう，国語辞典を活用し，語彙力を高める。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○正答率は85%を上回っている。漢字の読みでは，全員が正答している設問もあった。 ●市の平均と比べると正答率は2ポイント下回る。漢字の書き取り，修飾語，慣用句での正答率が低かった。	･市の平均との差は縮まってきた（昨年度比）。漢字練習やプリント学習を繰り返していくことで，力を伸ばしていきたい。また，語彙力を高められるよう，他教科の調べ学習や日常生活でも積極的に辞書を活用できるように環境を整備していく。

宇都宮市立城山中央小学校 第５学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	73.4	78.6	77.7
	量と測定	33.5	36.3	35.7
	図形	63.8	73.3	72.1
	数量関係	60.4	67.4	66.9
観点	数学的な考え方	55.1	59.9	59.4
	数量や図形についての技能	60.4	66.3	65.5
	数量や図形についての知識・理解	62.1	69.4	68.5



★指導の工夫と改善

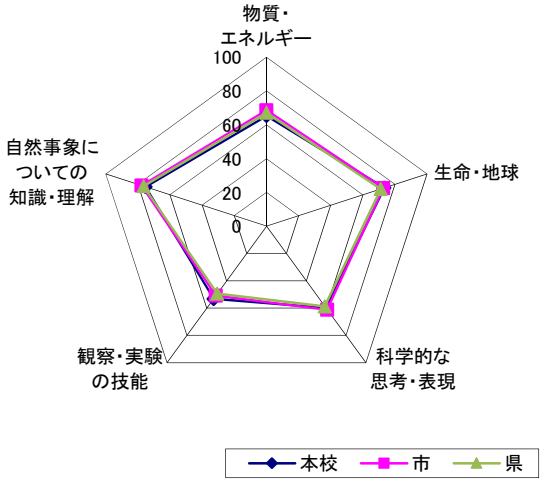
,○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○3位数－2位数（3桁−2桁のひき算）の見積もりの計算での正答率は市の平均を上回った。3桁の数をたしたり引いたりする計算ができている。 ●平均正答率は市の平均を約5ポイント下回っている。割り算の計算問題（余りを求める，商の立て方），分数（計算，帯分数と仮分数の表し方）の正答率が，市の平均を大きく下回っており，課題がみられる。	・わり算や分数は，５年生でも系統的，発展的に学習していくので，つまずきを早期に解消するために，４年生までの学習を振り返るための課題を出したり，単元の導入で既習の内容を確認したりしながら授業を展開できるようにする。また，基礎的な計算を解くことができるよう，ミニプリントを作成し，計画的な活用を図り，計算力を高められるようにする。
量と測定	●面積に関する設問では，市の平均を下回った。1㎡は1㎠がいくつ分かを求める設問，図をもとに面積を求める式を説明する設問での正答率が低かった。	・長さや重さの単位の変換ができるよう，習熟を図っていく。また，複雑な図形についても，既習の事項を利用して求められるよう，繰り返し学習できるよう支援していく。
図形	●市の平均正答率を約10ポイント下回っている。立方体の展開図をもとに平行な面の組み合わせを考える設問と平行四辺形の作図の2問が出題されたが，どちらも正答率を約10ポイント下回っている。平行四辺形の作図の正答率は50%を下回った。	・作図については，５年「合同な図形」，６年「拡大図と縮図」の学習との関わりが深い。４年生で学習した作図の知識と技能を活用できるよう，４年生での学習内容を想起できるよう学習展開をしていく。
数量関係	●市の平均正答率を7ポイント下回っている。二次元表に当てはまる数を求めたりグラフから考えたりする設問での正答率が低かった。二つの数量関係を考える設問でも課題が見られた。	・グラフの読み取りや説明については，算数の授業だけでなく，社会科や理科，総合的な学習の時間においても，グラフをかいたり読み取ったりする作業を通して習熟を図っていく。

宇都宮市立城山中央小学校 第５学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	65.2	68.6	67.0
	生命・地球	73.3	72.7	71.1
観点	科学的な思考・表現	59.8	61.2	58.8
	観察・実験の技能	53.2	51.0	49.5
	自然事象についての知識・理解	75.4	77.7	76.6



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○結果をもとに，金属の棒の温まり方を説明する設問，光電池の働きと光の強さから結果を推測する設問での正答率が市の平均を10ポイント以上上回った。実験の結果について問われる問題での正答率は，比較的高かった。 ●領域の平均正答率は65．2%で，市の平均を下回っている。水を熱すると上へ移動するという設問での正答率は市の平均を20ポイント以上下回った。また，水から氷への体積増加，電池の直列つなぎについて問われる設問での正答率が市の正答率を10ポイント以上下回るなど，基礎的知識での誤答が目立った。	・自然科学の知識を身に付けるために，実感を伴った理解が得られるよう活動の工夫や実験の改善を図っていく。また，実験での結果と考察だけでなく，まとめ，振り返り，次時の導入場面などで確認をしていくことで知識の定着を図る。 ・実験をする上で，条件をそろえるものや変えるものについて意識し，何を比較するのかを考えさせながら授業を展開していく。 ・朝の学習の時間や家庭学習などの場面で，県版パワーアップシートを活用し，復習をしていく。
生命・地球	○領域の平均正答率は73．3%で，市の平均をやや上回っている。星座の動きをとらえるための記録の仕方や，数時間ごとの月の動きなど，星や月に関わる設問での正答率が高かった。 ●太陽の光に当たる棒の影の変化，天気の変化から気温の変化を推測する設問での正答率が低かった。分かっている情報をもとに推測していくことへの課題が見られた。	・天気や星，月，太陽の動きが数時間後どのようになっているかは，一つだけの情報だけでなく，複数の情報や変化の様子を頼りに答えを推測できるよう，情報の活用をさせながら知識を身に付けさせていきたい。また，「天気の様子」については，日常的に天気と気温の関係について話題にしたり，意図的にプリント等を活用して理解を深めていく。

宇都宮市立城山中央小学校 第５学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫　　○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「勉強していて，おもしろい，楽しいと思うことがある」と回答した児童は90％以上であった。楽しいと感じることができるような学習方法や分かる授業をしていくことで，学習への意識が高まっている。
●算数，社会の学習が好きではないという傾向がみられる。学習のおもしろさや楽しさを味わうことができるよう指導の改善に努めていく。
○「学習して身に付けたことは，将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」「学校の宿題は，自分のためになっている」の質問での肯定的割合が高い。学習の大切さ（学習有用感）を感じながら学ぶことができている。
○家庭学習の取り組みについての質問では，市の平均と比べて意識が高い。授業の予習をすること，宿題以外の学習，学習に取り組む時間帯が決められているか，辞書の活用など，多くの項目で肯定的回答の割合が高かった。児童の学ぶ意欲を持続できるよう課題の与え方や学習の仕方などをさらに工夫していきたい。
●「学校のきまりを守っている」では市の平均よりも肯定的回答が低かった。学校全体の取り組みである生活目標を意識させ，できたときには認めていけるようにする。
○「自分のよさを人のために生かしたいと思う」，「自分が持っている能力を十分に発揮したい」の質問に対する肯定的割合が高かった。児童一人一人のよさを生かし，学級，学校で活躍できるよう学級経営に取り組んでいく。

宇都宮市立城山中央小学校（第４・５学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・まとめと振り返り活動の工夫	・学習のまとめと振り返りの仕方について，職員で共通理解を図り，学習に応じたまとめと振り返りを行う。	・授業後の振り返りの活動とまとめについて，５年生では市の平均を大きく上回り，意識して学習できるようになってきた。４年生では，５年生と比べて意識は低いが，学習効果としては，各教科での市の平均を大きく上回るなど，成果が出ている。

★学校全体で，今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・算数における基礎・基本の定着に課題がみられた。	・算数の基礎・基本の計算問題の習熟を図る。	・算数ミニプリントの作成と活用 ・朝の学習におけるステップアップシート（計算検定）の取り組み